



よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

# 蔵通信 三九号

2014.8

第三十八話  
縁と別れ

シリーズ  
絵金百話

発行：絵金蔵運営委員会  
発行日：2014年8月1日  
〒781-5310  
高知県香南市赤岡町538  
Tel/Fax 0887-57-7117  
ekingura@mxi.netwave.or.jp  
http://www.ekingura.com/



## INFORMATION

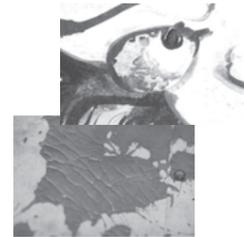
### 絵金屏風修復・保存活動へ ～ご寄付のお願い～

香南市赤岡町に伝わる絵金の芝居絵屏風23点は、幕末より祭礼文化と共に、地域の所蔵家の手によって守られてきました。平成17年より絵金蔵の収蔵庫にて保管されていますが、描かれてから約150の時を経て、絵具の剥落等傷みが進んでいます。

平成20年、これまで赤岡町内でそれぞれ活動していた4地区と個人の所蔵家が一つになり「赤岡絵金屏風保存会」を立ち上げました。現在、絵金蔵運営委員会と共に屏風絵と祭礼文化を末永く後世に伝えていくための様々な活動を行っています。

この活動に皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、どうかよろしくご依頼申し上げます。

赤岡絵金屏風保存会・絵金蔵運営委員会



【振込先】  
土佐香美農業協同組合 赤岡支所  
普通口座 0006101  
赤岡絵金屏風保存会 会長 武市徹  
(アカオカエキンビョウフホソノカイカイチョウタケトオル)

◎よろしければ、ご寄付くださった方のお名前、ご住所を絵金蔵までお知らせください。

### 絵金屏風・修復保存活動

### チャリティグッズ、販売してます！

ご寄付いただいた着物をもとに、絵金蔵ボランティアが様々なグッズを製作、売上をすべて保存会の修復・保存活動へ寄付しています。丁寧に手作りした小物をリーズナブルな価格で販売中。見るだけ、も歓迎します！ぜひお越しください。



牛乳パックで作った小箱 お針箱にも



白と紺、絞りの柄のゆかた地で作った巾着袋

冬物も登場しました。



レトロなウール生地で作ったあつたかマフラー



懐かしのお手玉インテリアにもおススメ

EKINGURA  
one-year  
passport



お得な年間パスポート  
販売中です。

1年間何度でも入館可能、その他、さまざまな特典あり。詳しくは絵金蔵HPをご覧ください。

### まちの素敵を探して、歩いて。

#### ★町歩きカバンをお貸します★

参加方法 絵金蔵受付にて参加受付。受付にて町歩きセット一式が入ったカバンをお受け取りください。  
※ 荷物預りあり (無料)

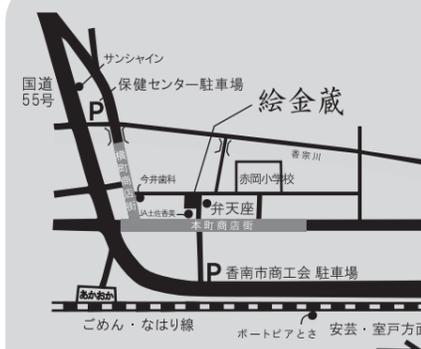
受付時間 午前9時～午後3時半  
(絵金蔵開館中)  
午後4時半までに絵金蔵にお戻りください

参加料 300円 (ラムネ代込み)  
お問い合わせ  
絵金蔵 TEL.0887-57-7117  
※ 団体の場合は要予約



### 【絵金蔵】

開館時間  
午前9時～午後5時  
(入館は午後4時半まで)  
観覧料  
大人500円、高校生300円  
小・中学生150円  
(15名以上の団体は各50円引き)  
休館日  
毎週月曜日  
(月曜が祝日の場合は火曜)  
12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵(通称・絵金)。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。

### 絵金蔵の三つの使命

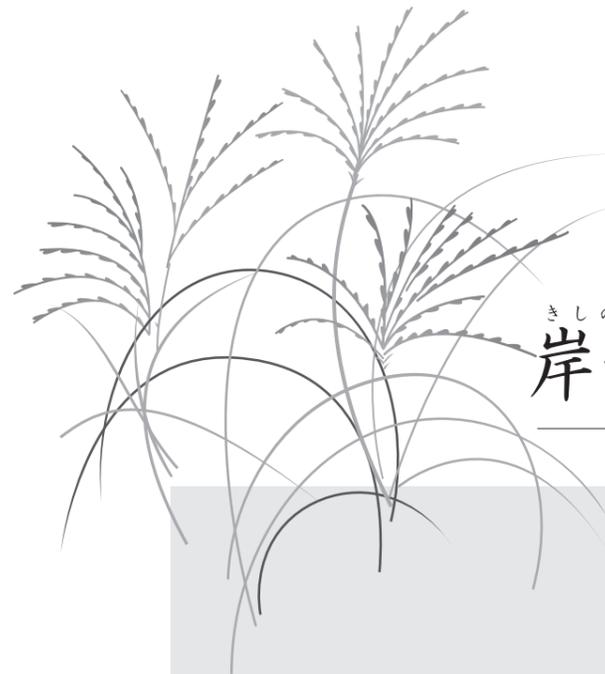
- ：年に一度 絵金の文化を守るため
- ：伝承 次世代へ伝えるため
- ：縁結び 地域を超えて世代を超えて

# 絵金百話

第三十八話 縁と別れ

あさひなじょうし  
朝比奈上使

きしのひめまつくつわかがみ  
岸姫松響鑑



## < 概要 >

『岸姫松響鑑』は、時代物の人形浄瑠璃として宝暦12年（1762）大阪・豊竹座にて初演されました。作者は豊竹応律・若竹笛躬・福松藤助・浅田一鳥・黒蔵主・並木永輔による合作です。全5段を通して演じられたのは初演時のみで、以後もっぱら3段目の「朝比奈上使（飯原兵衛館）」が演じられました。機会が少ないものの、現代でも上演される演目の一つです。

物語は北条氏と源氏との争いを題材に、『花系図都鑑』や『御所さくらほりかわようち桜堀川夜討』などの作品を突き合わせて作られた身替り譚で、これまでご紹介した『玉藻前曠袂』『競伊勢物語』などと同様に、親と娘とが出会った途端、忠義を貫くための犠牲として我が子を殺さねばならぬ悲劇の展開となります。そうした愛と忠義に挟まれた人々の葛藤が本作でもみどころです。

今回ご紹介する作品は、香美市土佐山田町・八王子宮の夏祭りで展示される河田小龍（1824-98）による作品。優れた絵師であり、坂本龍馬をはじめとする志士たちに開国論を説いたことでも知られる小龍は、土佐の各地で絵金と共に仕事を残しています。芝居絵屏風では絵金とは異なる個性を発揮し、その画風を受け継いだ小龍派の屏風絵も作例は少なくありません。今回もどうぞお楽しみください。



## あさがみおうじぐう 浅上王子宮 復活!! 屏風絵展示

これまで小誌でもご紹介してきた、香南市香我美町・浅上王子宮にて、七月二十一日、夏祭りが行われ、祭りでの本格的な公開としては、約五十年ぶりとなる屏風絵八点が、氏子総代の皆さんのご尽力により復活展示されました。

県内有数の規模となる絵金派の芝居絵屏風十六点を所蔵する浅上王子宮。幕末に、氏子である池ノ本、前田の両落が競って絵金に関わる複数の絵師に描かせたとみられ、絵を収納した墨書銘のある木箱や、当時の絵馬台の一部が残されています。もとは両集落の所蔵で、民家に保管されてきましたが、現在は浅上王子宮に寄贈されています。



→ 絵馬台の一部。右は両サイドにはめ込まれた横襖。芝居の題名が書かれています。

「前田若連中」奉納の収納箱銘（左、文久元年=1861）と、「池ノ本若連中」奉納の収納箱銘（右、文久2年=1862）

来年は残り八点の展示も行われる予定です。地域の担い手が減少するなか、一度途絶えた風習を復活させた氏子の皆さんの並々ならぬ思いが次世代につながるよう、これからも応援したいと思えます。



→ 平成二十六年に復活した展示（上）と、平成十九年に一部が復活された際の絵馬台（右、撮影・東郷幸夫氏）



## 神祭&絵金祭り えくらべ2014 開催報告



7月19日 絵金祭り



7月14日 須留田八幡宮神祭



7月30日 えくらべ2014 あかおか賞選考会



7月19日 えくらべ2014

今年も赤岡町に伝わる芝居絵屏風を飾る須留田八幡宮神祭（七月十四・十五日）と絵金祭り（七月十九・二十日）が例年通り開催されました。また絵金蔵運営委員会の主催で、三度目となる「えくらべ」も、祭りと同じ商店街を舞台に開催、これまで最も多い十六点の現代作家による屏風作品を展示、来場者による投票で大賞を決定し、絵金祭りに関わる町の人々による「あかおか賞」の表彰を行いました。ご来場いただいた皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。



← あかおか賞受賞  
丸尾友里奈  
「蜘蛛の糸」



← えくらべ大賞受賞  
中島芳奈子  
「雲竜来迎図」

# 絵金と河田小龍

幕末土佐の絵師として共に知られる絵金(1812-76)と河田小龍(1824-98)。残された作品を見ると、タイプの異なるように思える2人ですが、その交流をうかがわせる遺品が各地に残されています。今回ご紹介する屏風絵もそんな作品の一つ。2人の作品から、絵師や注文主、民衆たちが両者の画風の違い、競い合いを共に楽しんだ風景が浮かび上がってきます。



絵金

小龍



絵金筆「東山桜莊子 佐倉宗吾子別れ」  
香南市赤岡町本町二区所蔵



河田小龍筆「東山桜莊子 佐倉宗吾子別れ」  
香南市赤岡町本町四区所蔵

同じ歌舞伎の子別れの場面を描いた、赤岡町に伝わる絵金と小龍の作品。うねるような線を用いて大胆に感情を表す絵金と、直線が多く表情も抑制のきいた小龍、お互いの個性がよく出ています。

現存する絵馬台のうち、県下最大の作品。神社の拝殿風の台に、手長足長のユニークな彫刻が施されています。はめこまれた五つの芝居絵屏風のうち、今回ご紹介する左端の「岸姫松譽鑑」と右端の「玉藻前囃杖」の二点が小龍作、その両端から二つ目の作品は、それぞれ絵金作とみられます。



香美市土佐山田町・八王子宮夏祭り(平成21年) 手長足長絵馬台

## 河田小龍

文政7年(1824)高知城下・浦戸片町に水主・土生家の長男として生まれ、祖父の河田家を継ぐ。幼少より絵が巧みで、南宋画の島本蘭溪に入門、また儒学者・岡本寧甫のもとで儒学を学んだ。吉田東洋のすすめに従い京へ遊学、狩野永岳に師事し、二条城襖絵の修復にも関わった。本名は維鶴、小龍の他に、小梁、松梁、幡山と号した。若い頃に絵金の門を叩き、その肖像画を残している。また、蘭学の素養のあった小龍は、アメリカから帰国したジョン次郎の取り調べを行い、『漂異紀略』を著す。安政年間には、坂本龍馬に海外思想と世界の大勢を説いた。廃藩置県後は高知県庁に出仕したが、のち画業に専念し、晩年は広島・京都に居住する。明治31年(1898)没、75才。

かわだ・しょうりょう

えらいものが入門してきたがのうし

少年時代からその才能知られていた小龍が、絵金に教えを乞いに来た際、絵金が弟子である久保安吾にもうしたと伝わる言葉(若尾瀧水・海南先哲画人を語る、平成十年四月、亜細亜書房)

絵金

小龍



香南市・創造広場 アクトランド所蔵

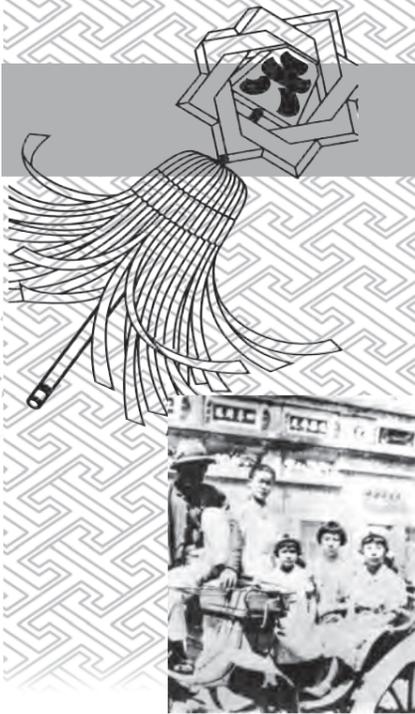


香南市・創造広場 アクトランド所蔵

# 絵金の時代

## VII 芝居に生きる 一其の一

「芝居が真好きじゃった」と伝えられる絵金。絵金にかぎらず、近世から近代にかけて、土佐の庶民の間で芝居が大流行したことは、各地に伝わる芝居絵からもうかがうことができます。しかし、そうした芝居がどこから、どのように伝えられていったのか詳しい事情を伝える資料は多くありません。今回、長年土佐地歌舞伎の中心におられ、86歳になられた今も、絵金歌舞伎伝承会の指導者として活躍されている中村和子さんに、その歩みをお聞きしました。



ハルピンにて(右から2人目)



### 1.赤岡に生まれる

昭和3年(1928)赤岡で生まれ、小学校へ上がる頃高知市上町へ引っ越し、子供芝居の劇団に入りました。当時は高知に師匠が3人ほどいて、子供芝居もいくつかグループがありました。

### 2.慰問団の一員として中国へ

昭和17年(1942)14歳の頃、大阪の松竹が結成した慰問団の一員として、所属していた少女歌舞伎が日本軍の慰問に行くことになりました。中国の東北地方、大連、奉天、ハルピンなどを1年間かけて周りました。

### 3.少女歌舞伎へ

その後、大阪の吉本興業が高知の子ばかりで少女歌舞伎を結成することになり、妹と共にその一座に加わって家族で高知と大阪を行き来する生活が始まりました。四国はもとより大阪の繁華街や西日本各地で歌舞伎公演を行い、1ヵ月通しての連続公演もありました。



少女歌舞伎で活動していた頃(右端、中央下は当時の座長)



中国、戦地での公演の様子

### 土佐歌舞伎最後の役者 実川八百五郎



高知市堺町、堀詰電停の南側に建つ銅像この辺りに芝居小屋「堀詰座」があった

じっかわ・やおごろう  
慶応2年(1866)-昭和37年(1962)

高知県香美郡香宗村土居(現、香南市野市町)に生まれ、6才で野市村に興行中の播州の役者・実川琴三郎の舞台にて初舞台を踏む。12才で当時土佐の名優といわれた嵐寛丸(のちの市川左門治)に弟子入りし嵐丸若を名乗る。その寛枝、友四郎となり、上方に出て、実川八百五郎と改名した。土佐の歌舞伎集団・共正会に所属し、県外の座にも加入、西国一円を興行、95歳で亡くなるまで現役で活躍した。

参考:『高知県百科事典』高知新聞社、昭和51年7月



絵金歌舞伎メンバーとの練習(右端)

### ～絵金歌舞伎との出会い～

絵金歌舞伎伝承会との関わりは、立ち上げの時から、もう21年になります。それまでも、赤岡のどろめ祭りで行われた「花魁道中」の手伝いなどで関わりはありましたが、ある時、赤岡の「おぼば」こと、故・横矢登志さんに絵金が描いた歌舞伎をやりたい、教えて欲しい、と頼まれたのがきっかけです。以来、赤岡の屏風絵に描かれた芝居のうち私が覚えている演目は全て教ええました。来年の絵金祭りでは、初めて「忠臣二度目清書 寺岡切腹」に挑戦します。

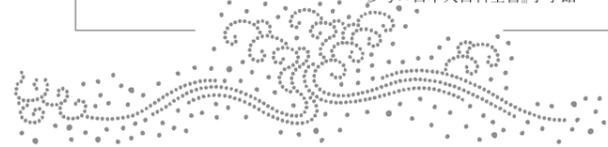


### 増殖するイメージ — 朝比奈三郎義秀 —

鎌倉時代前期に実在した朝比奈三郎義秀は、侍所別当を勤めた和田義盛の三男で、安房国朝夷(千葉県安房郡)に住んだことから、朝比奈三郎と称しました。建保元年(1213年)5月、父・義盛が北条氏を討つため挙兵した際共に奮戦しましたが、一族の多くは戦死し、義秀は残兵をまとめて安房に脱出、以後の消息は知られていません。『吾妻鏡』には、強力かつ泳ぎが達者であった逸話として、鎌倉小坪の海で將軍頼家の命を受け海中に入り、鯰3匹をとらえて浮上したという話が紹介されています。

この朝比奈の人物像はその後文学、演劇の世界でどんどん膨らみ、歌舞伎の曾我物として人気を博した軍記物『曾我物語』はじめ、読本『朝夷巡島記』(曲亭馬琴、1815-27刊)などに描かれ、さらに狂言『朝比奈』のなかでは、閻魔大王が朝比奈を地獄へ責め落とそうして逆に引き回され聞かせ、極楽への道案内をさせるといった、豪快かつユニークなキャラクターとして描かれています。

参考:『日本大百科全書』小学館



### ■ エ、因果の上の因果や。

隼人之助の芝居に気付かず、兄妹が不義を働いたと思ひこみ、ただただ泣くばかりの飯原兵衛の妻・藤巻。

### ■ お詞背きはいたさねど…

「わたしやこの世でたゞ一目遭ひたいお人がござんする」  
命をくれと詰め寄る出逢ったばかりの実父に手をつかえ、恋しい人の形見の片袖を見せる、おそよ。



物語る小道具  
～素襖の片袖と守刀～

おそよが一夜の契りを交わした相手にもらった素襖の片袖と、契りのしるしに授けた守刀。

### ■ その夜の形見はこれなるか。

一部始終を知ったおそよの兄・隼人之助は、持っていた守り刀を投げ出します。その恋情を絶ち、潔く司姫の身替りに立たせるため、妹に自分と不義を働いたと思ひこませる芝居でした。後に不憫なことをしたと語ります。



### ■ 兵衛涙を拭ひ…

育ての親・与茂作がおそよをかばい通すことを道理と思ひながらも「猶予ならぬ仕儀なれば一時も早く得心いたせ」と娘に詰め寄る飯原兵衛。

### ■ こりや何とするのじゃ!

娘を斬りつける母を突きのけ、駆け出てきた与茂作。飯原兵衛に切々と事情を説かれ、懇願されてもがんと受け付けず、親子の情を訴えて、おそよを守ろうとします。



## 岸姫松響鑑 朝比奈上使

二曲一隻屏風/紙本着色/146.0×130.6cm  
香美市・個人蔵 香美市立美術館寄託

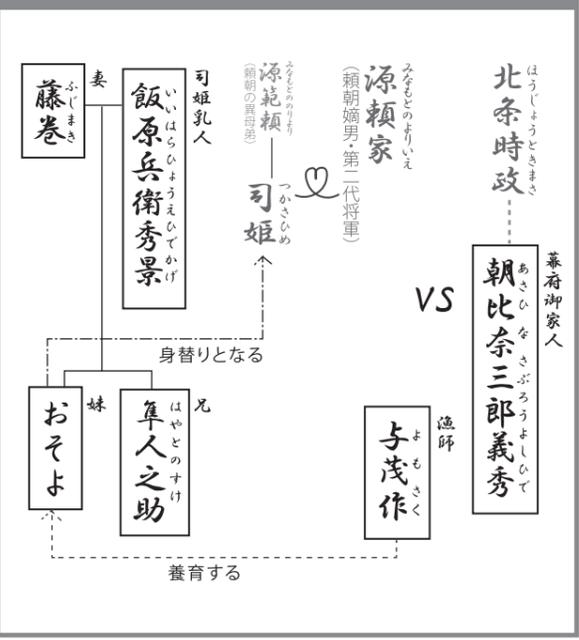
### — あらすじ —

美しいと評判の源範頼の息女・司姫に一の宮守貞親王の元へ入内させよとの勅命が下りる。しかし姫は將軍・源頼家の子を懐妊しており、北条氏の怒りを買う。北条時政は司姫を殺して頼家の血統を絶つよう朝比奈に命じ、姫の乳人・飯原兵衛の館へ上使として首を受け取りに行かせる。

一方、琵琶湖の漁師・与茂作は娘・おそよと共に巡礼で飯原兵衛の館へ立ち寄る。そこで、おそよは行方不明となっていた飯原夫婦の実子であることが判明する。妻・藤巻は喜ぶが、兵衛は司姫の身替りにおそよを殺そうと決意する。兵衛に命ぜられ泣く泣く斬りつける藤巻に、与茂作は驚き、おそよはかつて一夜の契りを交わした頼家の伴侍を慕って鎌倉まで来たことを話し、一目会いたいと形見の片袖を見せる。

ところがその相手が兄の隼人之助と分かり、絶望したおそよは身替りに立つ決心をする。しかし、それはおそよに決心させるための隼人之助の芝居だった。おそよが父に斬られた後、真実の相手は自分だと朝比奈が名乗り出る。朝比奈はおそよを生涯の妻と定め、飯原の家紋・鶴の丸が朝比奈に送られる。司姫は亡きおそよの巡礼衣装を着て落ち延びてゆく。

### 岸姫松響鑑 朝比奈上使 主要登場人物



さても侍と云ふ高売は胴欲なものぢやよの…  
まっこと身代りせいでならざ、おらがこの  
白髪首を切つての、おそよは助けて下さりませ

〔参考文献〕  
『文楽床本集』昭和47年9月 国立劇場  
『歌舞伎事典』平凡社 1993年4月  
『歌舞伎登場人物事典』白水社 2006年5月  
『絵金 極彩の闇』grambooks 2012年10月  
『絵金 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館 1996年